



林修の特別授業

【今日のテーマ】

協同組合 第13回

協同組合の役割や取り組みについて、おなじみ林修先生がわかりやすく解説する特別授業。今回は、少子化・核家族化の現在、JAが地域のなかで取り組む子育て支援事業を紹介します。



JAって農業協同組合ですよね？なのに どうして子育て支援に取り組んでいるの？



地域に根ざし、地域のニーズに応えることも 協同組合の大切な役割なんです。



親子で土とふれあう

くみあい保育園 (JA加古川南)



林 早いもので、もうすぐ4月。新入学・入園の季節ですね。

望月 うちの近所のご夫婦は、この春から奥さんが復職するために子どもの保育園を探したら、なかなか見つからなくて困ったそうです。

子どもを育てるには、周囲の環境も重要なんですね。

林 だからこそ、子どもは地域で育てるという意識が大切だと思います。実は兵庫県には、約50年前からJAが運営する保育園があるんです。

望月 JAが保育園？ JAって本当にいろいろな事業を運営しているんですね。しかも50年前からなんて驚きです。

林 JA加古川南の「くみあい保育園」が設立されたのは1968年。兼業農家が増え始めた時代に、これからの新しい農家の生き方を応援しようと始まった取り組みです。最近では保護者に占める農家の割合は少なくなったものの、少子化の現在も園児数はほぼ一定しているそうです。

望月 JAならではの特色はあるんですか？

林 給食のお米は地元産のヒノヒカリ、野菜類も地元産が中心です。またサツマイモ掘りやお花摘み体験など、親子で土にふれる機会も多くあります。こうした取り組みを通して、地域の農業に親しみを感じる「応援団」を増やしていきたいという思いもあるそうです。

ここがポイント

兼業農家の働き方を支援するために開設された保育園

給食には地元産のお米や野菜を使用



「たくましいからだ ゆたかなこころ」が教育目標

地域のニーズに応える子育て支援



保護者の支援も充実

はだしっ子 (JA北つくば)

ここがポイント

子どもを育てる人たちのコミュニティをつくり、育児不安の解消をはかる取り組み

食農教育やJA厚生連との連携に力を入れている



イモ掘りの日は家族総出で楽しむ人たちも

ら、みんなで支えていくことが大切ですね。

林 行政とは違う自由度がある一方で、さまざまな専門家の力を借りて個人レベルではできない取り組みもできる。人と人との「助け合い」である協同組合の可能性をあらためて感じます。

望月 いいですね、地元のブランド米がいつも食べられるなんて、園児がうらやましいです。

林 茨城県のJA北つくばには、子育て中の地域の人たちとつながり、育児不安の解消をはかることを目的とした「はだしっ子」という子育て支援センターがあります。ここは原則火曜と木曜日に開放され、訪れた親子が保育士と一緒に工作や折り紙、絵本などを楽しむことができます。対象は未就学児とその保護者ですが、小学生まで広げてほしい、実施回数を増やしてほしいという要望が絶えず寄せられる、地域の役に立っている取り組みなのだそうです。

望月 そのセンターでも、JAならではのイベントなどあるんですか？

林 そうですね、くみあい保育園と同様、イモ掘りやブルーベリー摘みといった食農教育には特に力を入れています。また、もうひとつの特色は、保護者のサポートにも熱心なこと。JA厚生連との連携で、医療の専門家を招いた育児相談会を開くこともあるそうです。

望月 子どもたちの未来は地域の未来ですか



昔は田畑が広がっていた保育園の周囲も、今ではすっかり住宅街になりました。これから子どもたちにも、土と親しむ・本物にふれる体験を多く提供していきたいと思っています。

JA加古川南 管理部長 小西正浩さん



共働きや核家族化で子育てに悩む人が増加

「助け合い」の一環としてJAが子育てを支援



センターは稲川市にあります。管内の稲城市や茨西市の保護者からも要望があるので、できるだけ各地で出張型の「はだしっ子」を実施していくことが今後の目標です。

JA北つくば 総務部長 園児子育て支援センター長 生井明美さん

協同組合の掲げる「助け合い」の精神は地域の未来を支えるために大切です。

JAは農業の支援だけでなく、いろんな取り組みで暮らしを支えているんですね。

✓ 今日のまとめ 協同組合は「助け合い」の心で子育てを応援。

BS朝日 今日放送 「林修が世の中のギモンを徹底解説 よくわかる! なっとく授業」 地域の暮らしをもっと元気に! 今できることって何? 林先生の解説に注目!



今日 2時

東進ハイスクール 講師 林修先生

生徒 望月まりなさん

はやし おさむ 東京大学法学部卒業。東進のTVコマシャルのセリフ「いつやるか? 今でしょ!」が2013年新語・流行語大賞に。受験生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを担う多忙な日々を送る。

もつぎ まりな 2002年9月22日生まれ。出身地不明。7歳からダンスを始め、国内の大会だけでなく、海外の大会でも多くの優勝経験がある。ダンスと学業との両立を目指す女子高校生ダンサー。現在は朝日新聞大学入試キャンペーンイメージキャラクターを務める。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ